

こいふ、有効適切な運動に就きましては、少くとも私は、母親の一人として、日本全国に之が擴充され、深められ、

組織化されて、日本獨得のものにして、成長させ徹底させ、
て戴き度いものも、深く願つてゐる次第でございます。

「おはなし」は自分の手で

この見出しの言葉は、石森延男氏の近著「幼児の母欄内紹介」の中にある言葉です。著者は斯う書いてゐられます。

「今まで、おはなしこいへば、私もは、すぐ何かほかのところにその種がないかさがしまはつてゐました。そこかをさがしてゐれば、おはなしを書いた本か、なにかあるだらうと目を外に向けてゐたのであります。これではいけない。こんごは一つ自分のもの、自分の力で、おはなしを生み出さねばだめだ。……それはかうです。あなた自身の身のまはりのところからおはなしの種をさがすこいふことです。子どもたちの目につくものを、すぐおはなしの種にしてしまふのです。」

此の同じ趣旨で、保育實習科の若い人達が試みた試作の中から數篇を拾つて見ました。おはなしの一つの新しい分野を開き進めてゆきたい心持ちから。(編輯子)

鍵穴のお話

若宮梅子

或る日のこと、皆さんが「サヨナラ〜」と言つて、元氣よく幼稚園からお家に歸つて行つてしまつてからのことです。誰も居なくなつてしまふと、靜かだつた皆さんのお部屋が急にぎやかに

なつて來ました。

何がはじまつたのでせうか。

お部屋の中では丁度會がはじまつたのです。集まつたのは皆お部屋の中のものばかりです。先づ大きな黒板さんが、真中にやつて來ました。續いてお窓さん、戸さん、机さん、椅子さん、花瓶さん、お花さん、電燈さん等皆が集つて來ます。それでお部屋の中は、皆さんがこのお部屋にいらつしやる時より、もつと〜にぎやかになつてしまひました。皆お友達同志といろ〜なお話を

して居ます。その中に真中の黒板さんが立ち上りました。

「皆さん、今日は皆さんの中のごなたかに、御自分の知つてゐる面白い、楽しいお話をしていたゞきませう。」

黒板さんがかう言ふとお窓さん、机さん、椅子さん達は「ハイハイ〜!!」と手を上げました。さて誰にしていたゞきませうか。

黒板さんは困つてしまひました。でも、すぐによいことを思ひつきました。

「では皆さん、今日は」に集つたものゝ中で一番小さい方にしていたゞくことに致しませう。他の方は又この次のお集りの時に順々にしていたゞくことにします。皆さんいかがですか?」

「賛成、サンセイ」皆もかう言つて喜びました。

「では早速始めていたゞきます。えーと、一番小さい方はどなたですか。あ、そこに居るクレヨンさんが一番小さい様ですね。ではクレヨンさんが一番ですよ。」

黒板さんがかう言ふとクレヨンさんは立つて真中にやつて來ました。すると何處かで「黒板さん、僕の方が小さいですよ。クレヨンさんよりずっと小さいんですよ」と言ふ小さな聲がきこえました。「總だ、皆が不思議さうな顔をして方々を見廻しました。でもまだ分りません。すると「此處ですよ、僕は戸さんのお隣りに居るんですよ。それで皆の眼は戸さんの隣の席に集りました。「あゝさうか〜」鍵穴さんが。成程、鍵穴さんの方がクレヨンさんより小さいね。では今日は鍵穴さんにして頂くことにして、クレヨンさんはこの次にお願ひしませう」黒板さんのこの聲で一番は鍵穴さんと決りました。鍵穴さんは小さな身體カラダをチヨ〜

させて前に出て來ました。そして皆に向つてビヨンと小さなおじぎをしました。

「皆さん、それでは今日は僕が、僕の知つて居る面白いお話を致します。」

かう御挨拶をしてから鍵穴さんのお話が始まりました。

× × ×

僕はこんなに小さい身體カラダをして居ますけれど、戸さんと一緒について居るので、お部屋の中もお庭も両方ともよく見る事が出來ます。それで面白いお話も澤山ありますから順々にお話して行きませう。僕が此處に來てはじめての頃です。お庭の櫻の花がとてきれいに咲いて居ました。

「お手々つないで野道を行けばみんな可愛い兎になつて」僕が口を大きく開けて歌つて居ると、お部屋の中から大きなかはいらしい聲が聞えて來ました。見るとそれは、眞赤なお洋服を着た可愛らしいお嬢さんでした。「何だか、見たことがある様な気がするなア」僕はさう思つて、考へてみましたけれど思ひ出せませんでした。するとそのお嬢さんが「お母ちゃん、春子お姉ちゃんは何處なの?」と、お母様に尋ねて居るのが僕の耳にも入りました。それで僕はやつと「この間迄、此處のお部屋に居て、今日から大きい粗になつた春子さんの妹さんだな」といふ事が分りました。お名前はみどりさんといふのでした。みどりさんはチヨ〜と僕の方に走つて來ました。そして僕をみつめてかはい、眼でお部屋の中からお庭をのぞきました。僕はもうみどりさんと仲よしになつてしまつたのですよ。みどりさんはかくれんぼの時いつも〜僕の居る戸

さんの後にかくれます。

それからだん／＼暑くなつて来るとお池では笹舟競争が始りますよ。僕はその舟に乗つてみたたくてたまりませんでしたけれど僕が乗つたらお舟はきつと早く走れないでせう。だから我慢して見て居ました。夕方近くになると雀のチユン子さん、チユン吉さん達が水遊びにお池にやつて来ますよ。チユン子さん、チユン吉さんは、いつも羽をバタ／＼やつて水のとばしつこを遊ぶのです。チユン吉さんの方が大抵勝つてしまひます。チユン子さん達は時々鳥のカン太郎さん、カア子さん達を連れて来る事があります。水のとばし合ひをする今度はカン太郎さん、カア子さんの方がチユン吉さんをまかしてしまふんですよ。カア子さんはいつだつたか一度お友達を澤山連れて来ました。眞黒なお友達なのでお池はすつかり黒く見えました。そして遅く迄プールごっこをして遊んで居ましたよ。さう／＼こんな事もありました。

これは赤とんぼさんから聞いたお話ですから秋でせうね。このお庭の向ふの方は廣い／＼野原なのですつて、それで赤とんぼさんのお家もその野原の中にあるさうですよ。野原の眞中には大きな池があつてとてもきれいですつて。夜赤とんぼさんが「お休みなさい」をしようとする時になると、お月様がこの池に遊びにいらつしやるさうですよ。時々はお供のお星様もお連れになつて。僕はお月様におめにかゝりたくてたまらないので毎日お祈りをして居ます。「お月様、さうぞ此處のお庭のお池にも、お遊びにおいで下さいませうよ。」つて。でもまだ一度も来て下さいませぬ。若しかしたら此處のお池は小さすぎるのかも知れません。

僕がかうして待つて居る中に随分たつて急に空から白い粉の様なものが澤山落ちて来ました。「あ！お月様からのお手紙かもしれない」僕はさう思つて手を伸ばして取らうとしました。でも一つとれませんでした。「一體どうしたのだらう」僕は一生懸命考へました。若しかしたらチユン子さんがすつと前にお話して下さつた雪といふものかも知れない。「さう思つて翌日チユン子さんにきて見たらやつぱりさうでした。雪つてきれいですね。眞白でも随分冷いものですな。机さん、椅子さん引出しさん達はまた見たことがないでせう？本當にきれいですよ。そしてね、雪は：

鍵穴さんがもつと／＼續きをお話しようとする、急に廊下の外でコソ／＼／＼と音がしました。「アツ大變だ、戸さん、早く戸をしめて。窓さんも早くしめて下さい!!大變だ、鼠さんがやつて来る。」黒板さんは大きな聲で叫びました。皆も一目散にもとの場所に戻つて行きました。それでどう／＼面白かつた鍵穴さんのお話も途中でやめになつてしまひました。

でもいつか又きつと續きをして下さることでせう。皆さんも御一緒にそれを待つて居ませうね。——終——

繪のお帳面

宮原 恭子

照子さんと正子さんと裕子さんは三人共お繪かきがとても好き